

## 令和2年度 中学生の「税についての作文」

千葉県柏県税事務所長賞

### 「税金はメリーゴーランドの白馬です」

芝浦工業大学柏中学校 三年 松木 亜依

私には、六歳離れた妹と二歳年上の兄がいます。三人兄妹だと少し窮屈ですが、そのおかげで四つの税の使い道を学ぶことができました。

一つめは、妹の給食費が無料になっていることを知ったのがきっかけです。母によると長子が就職するまで、三人目以降の子どもの給食費は、申請すると全額補助してくれるという制度があるそうです。妹が今日もおいしく給食を食べることができているのは、国民が納めている税金があるからだとなりました。

二つめは、妹の泣き声がうるさくて学校の宿題に集中して取り組めなかったのがきっかけです。父に勧められて、近所にある公民館の学習室を利用するようになりました。夏は涼しく、冬は暖かくとても集中して勉強ができる場所です。また、学習室以外にも児童センターやクライミングウォールなどがあり、公民館は、地域の方といろいろな形で交流できる場となっています。そんな公民館も税金がなくては利用できません。

三つめは、兄が急にひきつけを起こしてしまい、救急車で搬送されたのがきっかけです。当時の私は、テレビでドクターカーを使用した人が料金を払っていたのを見たことがあったので、救急車の利用にお金が発生すると思っていたいました。けれど、そのようなやり取りが見られなかったので母に尋ねてみると、救急車は税金を使って兄を病院に送り届けてくれたのだと教えてくれました。

四つめは、妹がよく友達と行っている放課後子ども教室へ顔を出しに行ったのがきっかけです。その放課後教室は、放課後に空き教室を使っておもちゃで遊べるのです。たくさんのおもちゃがあり、アイロンビーズやプラ板などを作ることもできるので、利用料金を払っているのだろうと思っていたのですが、そこにも税金が使われていました。

私は、この四つのできごとを通して、何気なく消費税を払い、父のお給料は当たり前のように所得税が引かれて銀行に振り込まれており、また、当たり前のように蛇口をひねると水がでてくる、そんな「当たり前」の私たちの生活では税金がメリーゴーランドの白馬のように回っているということに、気がつくきました。払った税金は、国会の予算になるかもしれない、公民館の運営に使われるかもしれない、どこか困っている人の手元に行くのかもしれない。けれどいつかはそんな長旅を終えて、白馬に乗り、困っている私を「当たり前前の生活」へ引き戻すために帰ってきてくれるだろうと思います。

少し窮屈な三人兄妹の真ん中。税の白馬に気づけた私は「当たり前」に支えてくれる、新たなイメージの税金と出会えました。